

皐月賞

日曜は、土曜よりもさらに時計出る馬場を想定。
クラシック血統に米国のスピード血統を詰め込まれた配合馬が有利な馬場。

本命はキラーアビリティ。

母父が米国型のコンガリー。
2代母の父系がエーピーインディ系で3代母の父系がインリアリティ系。

母父が米国型で母系にシアトルスルーを持つのは
皐月賞を勝ったアルアイン、コントレイルと同じ。

先日大阪杯 1、2着のポタジェ、レイパパレもディーブ×米国型

前走のホープフルSは、タフな馬場を早仕掛け。
本質的には向かない競馬で勝ち切ったように潜在能力も高く、
適性による上積みも見込めます。

管理する斎藤崇史調教師は、クロノジェネシスで
同じ内回り2000mで行われたG1秋華賞を中5ヶ月あまりの
ステップで勝たせています。牧場を含めて狙いすましたローテーション

ダノンブルーガは父ハーツクライ。

母父は米国型のなかでも芝短距離適性高いインリアリティの系統。

母母父はエーピーインディ系。
クラシック血統に米国の速さを詰め込まれた配合。

ハーツクライ産駒で唯一皐月賞を連対したのは、サリオス。
サリオスもダノンブルーガと同様に母系にダンチヒとニニスキを持ち、

堀厩舎の管理馬。

当時のサリオスもあえて本命に推奨しましたが、堀厩舎によってスピードを引き出され、ハーツクライ産駒としては異質のタイプでした。

クラシックに関してはサリオス以上の適性とスケールを持ち合わせていると予想します。

デシエルトは父が引き出し型のドレフォン。
母は皐月賞馬ドウラメンテの全姉。

父がノーザンダンサー系で母が芝のクラシック血統は、
ロゴタイプやペルシアンナイトも該当。

先日の大阪杯で3着のアリーヴォは
父がドウラメンテで母父がストームバード系。

アリーヴォの父と母を入れ替えたような配合。
クラシック向きのスケール秘める血統。

軽い馬場でもさらにスピードを発揮することはできそう。

アンタレスステークス

芝マイル以下、芝短距離の適性の高い血が穴を出すレース。

ダート中距離重賞なので、芝短距離適性の高い血を持つ馬は多くないので注目の傾向。

過去5年で3回馬券になっているカネヒキリの父はフジキセキ。

2019年1着、2020年2着のアナザートウルースは母父がフジキセキ。
2021年6番人気3着のロードブレスは母母父がフジキセキ。
2017年1着モルトバーネ、2020年3着クリンチャーと
ディープスカイ産駒も2回馬券に。
ディープスカイは父がアグネスタキオン。
Pサンデー系の血を持つ馬の好走が目立っています。

過去5年で馬券になった15頭中13頭は中4週以内。
間隔を詰めている馬も有利。

芝短距離向きの血を持つ馬の中で
タフなレースに耐えられるローテで出走する馬が有利。

本命はアルーブルト。

母父はPサンデー系のマツリダゴッホ。
近親にエリザベス女王杯連続連対のクロコスミア。
同馬もステイゴールド系の配合。
キャリアを重ねて経験を積みながら強敵にも食い下がる血統。

中3週のローテーション。
当レースにも、叩き上昇の自身の才能にもマッチ。